

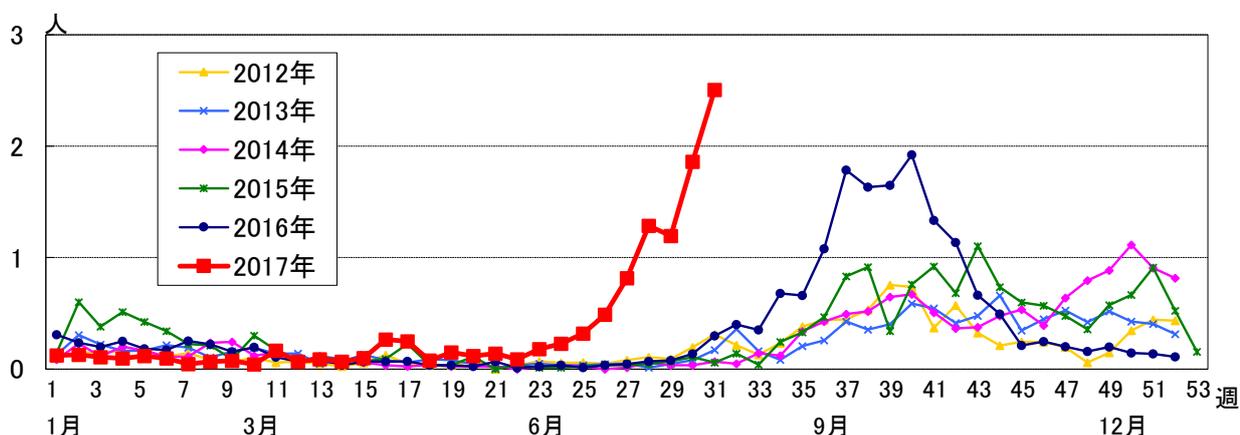
## RS ウイルス感染症の報告数が増加しています。

### 【概況】

RS ウイルス感染症の患者報告数が、例年より **1 か月以上早く増加**し始めています。2017 年第 31 週(7 月 31 日～8 月 6 日)の定点<sup>※1</sup>あたりの患者報告数は **2.51** となっており、例年より報告数が多くなっています。

※1 定点とは、毎週患者発生状況を報告していただいている医療機関(RS ウイルス感染症は小児科定点 94 か所から報告されています)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

1 市内流行状況:2017 年 6 月頃より増加し始め、第 30 週は定点あたり 1.86、第 31 週は 2.51 と増加しています。



### RS ウイルス感染症とは<sup>※2※3</sup>

2～8 日(典型的には 4～6 日)の潜伏期において、発熱や鼻汁などの症状が数日続きます。多くは軽症ですが、その後咳がひどくなったり、喘鳴、呼吸困難などの症状が出現したり、特に乳児では、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。家族に乳幼児がいる場合、注意が必要です。

#### 【予防対策】

感染経路は飛沫感染と接触感染で、感染予防として、手洗いの徹底、手すり・おもちゃなどの消毒、特に乳幼児と接触する大人のマスク着用等が必要です。

※2 [IDWR 2016 年第 38 号<注目すべき感染症> RS ウイルス感染症\(国立感染症研究所\)](#)

※3 [RS ウイルス感染症 Q&A\(厚生労働省\)](#)